

平成30年度 東京都立三鷹中等教育学校 学校経営報告

校長 藤野 泰 郎

1 本年度の総括

平成30年度は、「6年間の中高一貫教育を通して、他者を思いやることのできる豊かな心を持ち、「胸は祖国に置き、眼は世界に注ぐ」の精神の下、国際社会で日本の良さを語り、人間性豊かな社会を構築する「思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を持った社会的リーダー」の育成を図る」ことを引き続き基本理念として掲げるなか、4回目の卒業生が巣立ち、卒業後の進路も昨年を上回る成果を上げることができた。既存の取組について改善の方策も具体的になってきたことから、開設9年目を充実期としてとらえ、各取組の改善を中心に経営計画を策定し、実践した。

東京都教育委員会の施策・事業を最大限に活用し、予算措置や物的支援を受け、目的を明確にした教育活動が実践されるよう、組織的に取り組むことができた。一方、ICT機器の活用などによる働き方改革等の職場改善も一層推進することができた。次年度以降も今年度の経営報告をもとに学校が常に発展できるよう、教職員一人一人が力を発揮し、一枚岩になって改善に取り組むことが求められる。

2 本年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①6年間を見通した教育課程の編成と特色のある教育を推進する。（学習指導）

→新学習指導要領及び高大接続改革に伴う大学入学選抜に関する対応として、平成31年度から後期課程の授業の実施単位数を増加することとした。

②将来の在り方・生き方を見据えた、系統的・継続的キャリア教育を行う。（進路指導）

→総合的な学習の時間と各教科や特別活動とを効果的に関連付けた、6年間の全体的・教科等横断的な学習指導計画を開発した。

③規範意識を高め、発達段階に応じた生活指導を充実させ、心身の健康維持も図る。（生活指導）

→学校行事などの特別活動や部活動を通して、前期課程の生徒には後期課程の生徒を自らの言動への模範や近い将来の目標として設定させ、後期課程の生徒には前期課程の生徒に対して常に思いやりとプライドをもって接することにより社会的リーダーとしての資質を高めさせた。

④地域や日本を理解する教育活動を充実させる。（特別活動・地域交流・健康づくり）

→伝統・文化教育推進校の指定終了後も、地域人材を幅広く活用し、我が国及び地域における文化・科学・産業・歴史等に関する教育活動を、一層充実させ、実施した。

⑤国際理解教育を推進し、グローバルな視野の育成を図る。（国際理解教育・広報活動）

→校内留学や海外ボランティア研修、次世代リーダー育成道場などの各取組を、海外大学進学に向けた系統的な指導計画に位置付けるとともに、生徒にも明確に自覚させて取り組ませ、海外大学に進学しようとする意識を高める機会とした。

⑥ICT機器を活用した幅広い教育活動を展開する。（学校経営・授業改善）

→ICT機器を活用した真のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開を研究し、ICTパイロット校研究発表会において、全ての教員が学習指導案を提案した。

⑦中高一貫教育校としての指導体制を確立する。（学校経営）

→学校経営の中枢として主幹経営会議を活性化させるとともに、授業評価及び学校評価の結果を活用した教

育活動の検証を通して、教職員の意識及び組織の自律的改革を推進した。

- ⑧**持続可能な社会づくりに向けた教育・活動を推進する。(学校経営・教職員のライフ・ワーク・バランス)**
→最新の教育課題に関する校内研修会を、計画回数を大幅に上回って実施し、変化する教育内容に対応できる力を教職員に育んだ。

3 指導の重点目標と具体的取組の成果

(1) 30年度の重点目標

○学習指導

- ①前期課程の月曜補習は15講座以上開講し、年間18週以上実施する。
- ②後期課程の放課後補習は、年間20週以上実施する。
- ③前期課程及び第5学年では、夏季休業日中に1週間の補習週間(20時間)を実施する。また、第6学年を中心とした講習・補習講座を各長期休業日中に合計100講座以上実施する。さらに、第4学年では夏季休業日中、第5学年では冬季休業日中に2泊3日の勉強合宿を実施する。
- ④校内研修会を年間2回以上、小中高合同研修会を年間1回、授業研究を年間12回以上実施する。
- ⑤年間18回以上の授業公開と年間1回の道徳授業地区公開講座を実施する。

○生活指導・生徒相談活動

- ①部活動加入率を90.0%以上とする。
- ②セーフティ教室を年間2回、安全指導を年間11回(避難訓練・防災訓練4回を含む)実施する。
- ③生徒相談連絡会を年間4回実施する。
- ④学校事故発生件数0を目指す。
- ⑤自殺予防対策として、専門的知識を身に付け、生徒のサインを見逃さないようにするため、専門家を講師として招聘した校内研修を年間1回以上実施する。

○進路指導

- ①センター試験実受験者を99.0%以上とする。
- ②難関国立大学志望生徒のグループを形成して受験対策を行い、合格者を8人以上とする。また、国公立大学合格者を現役40人以上とする。
- ③難関私立大学(早稲田・慶應・上智・東京理科)志望生徒のグループを形成して受験対策を行い、合格者を現役70人以上とする。
- ④GMARCH(学習院・明治・青山・立教・中央・法政)合格者を、現役100人以上とする。
- ⑤第6学年についてケース会議を年3回実施するとともに、後期課程における校内実力試験を実施する。
- ⑥ファースト、セカンド、サードステージの各発表会を、ICT等を活用し、それぞれ年1回開催するとともに、全員の論文を冊子にまとめ発表する。
- ⑦第3・4学年において、学年による大学訪問をそれぞれ年1回実施するとともに、夏季休業日中にオープン・キャンパス訪問を行う。
- ⑧のべ60社以上の事業所と連携した職場見学・職場体験をそれぞれ年1回、学年単位で実施する。第2学年においては、職場体験と自分が目指すリーダー像についての発表会を開催する。

○募集対策

- ①学校見学会・学校説明会への参加者をのべ5,000人、授業公開への参加者をのべ1,800人以上とする。
- ②授業公開の土曜日における説明会を年10回実施する。
- ③一般枠募集の応募倍率を6.0倍以上とする。
- ④適性検査の解説会を年1回以上開催する。

○グローバル人材の育成

- ①海外生徒を招いての国際交流を年3回以上実施する。
- ②校内留学を冬季・春季休業日中にそれぞれ3日間実施し、参加生徒を60人以上確保する。
- ③海外ボランティア研修を春季休業日中にアメリカ合衆国において実施し、参加生徒を40人以上確保する。
- ④海外修学旅行を実施し、海外における学校交流を1日実施する。
- ⑤「東京グローバル10」として英語力の向上を図り、前期課程修了時点における英検準2級以上の取得率を65.0%以上とする。
- ⑥GTEC3技能試験における取得目標平均点を、第4学年について520点(Basic)、第5学年について550点(Advanced)、第6学年について610点(Advanced)と設定するとともに、第4・5学年全員にSpeakingを受験させ、50%の生徒をGrade4に到達させる。
- ⑦インターネットの活用等により、海外姉妹校2校との交流の充実を図る。
- ⑧インバウンドの人々に、日本の伝統・文化や歴史について英語で説明しながら東京を散策する東京グローバル遠足を、第6学年の学校行事として年1回実施する

○その他(特色ある教育活動、指定校・推進校の取組)

基本計画に則り、教育活動の特色化を図るとともに、東京都教育委員会事業の成果を測り、検証する。

- ①朝読書を毎日実施し、生徒一人当たりの年間読書冊数を最低25冊以上とするとともに、図書館における図書の間貸出冊数を14,000冊以上とする。
- ②ICT機器を活用した授業の公開を年2回以上、ICTパイロット校事業成果検証報告会を年1回実施する。
- ③主権者教育充実のため、模擬選挙(第3学年「社会」、憲法出前授業・税務教室・模擬裁判員体験・財務教育プログラム(第4学年「文化科学II」)などの特別授業を、弁護士会・税務署・財務省など外部機関と連携し、それぞれ年1回以上実施する。
- ④言語能力の更なる向上を図るため、書評合戦(第1学年「文化科学I」、第4学年「国語総合」)を実施し、上部大会に出場する。
- ⑤日本の伝統・文化継承の一環として、江戸時代の数学「算額」や統計の基本を学ぶ。(第2学年「自然科学I」)
- ⑥地域資源を活用し、科学的思考を醸成する機会を設け、多様な進路に対応する。(地域企業、JAXA等との連携)
- ⑦キャリア教育充実のため、第1・2学年(ファーストステージ)において職業観・勤労観の育成のため、第3・4学年(セカンドステージ)において学問の研究のため、第5・6学年(サードステージ)において進路の決定を図るため、論文を作成するとともに発表会を実施し、全生徒の論文を冊子として記録・保存する。(全学年「人生設計学(総合的な学習の時間)」)
- ⑧持続可能な社会づくりに向けた教育・活動を推進するため、スポンサード・ウォークとして、「玉川上水」駅等から本校まで、歴史や環境問題等を考えながら歩き、完歩した際は保護者などのスポンサーから募金を受け取り、慈善活動団体等に寄付するチャリティー活動に取り組む。併せて自ら課した目標の達成感を味わわせるとともに、体力の向上を図る。(第3学年 学年行事)
- ⑨若手教員を中心に、授業や分掌業務に関する2人一組のOJTを、5組以上実施する。
- ⑩会議における負担を減少させるため、タブレットPCを活用し、企画調整会議、職員会議ほか全ての会議をペーパーレス化する。(ICTパイロット校)
- ⑪管理職は年10日以上、主幹教諭は年5日以上休暇を率先して取得することでライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ⑫いずれかの長期休業日中に、全ての教職員が完全休養する休校日を1日以上設ける。(週休日及び年末年始の閉庁日を除く)

(2) 具体的取組の成果と課題

番	分野	項目	年間目標	成果と課題	評価
1	学習指導	前期課程の月曜補習	15講座以上開講 年間18週以上実施	27講座開講 年間19週実施	A B
		後期課程の放課後補習	年間20週以上実施	年間21週実施	B
		前期課程及び第5学年の夏季休業日中講習	1週間の補習週間(20時間)実施	20時間実施	A
		第6学年を中心とした補習講座	各長期休業日中に合計100講座以上実施	各長期休業日中:合計68講座、放課後:合計41講座実施	A
		第4・5学年の勉強合宿実施	2泊3日	両学年で実施	B
		校内研修会	年間2回	年間8回実施	A
		小中高合同研修会	年間1回	年間1回実施	B
		授業研究	年間12回以上	年間14回実施	B
		授業公開	年間18回以上	年間19回実施	B
道徳授業地区公開講座	年間1回	年間1回実施:来校者の増加が課題	B-		
2	生徒相談活動	部活動加入率	90.0%以上	94.0%加入	A
		セーフティ教室	年間2回	年間2回実施	B
		安全指導(防災・避難訓練4回を含む)	年間11回	年間11回実施:内容の充実が課題	B-
		生徒相談連絡会	年間4回	年4回実施	B
		学校事故発生件数	0件	0件	A
3	進路指導	センター試験実受験者	99.0%以上	98.7%受験	B
		難関国立大合格者数	現役8人以上	現役9人合格	B
		国公立大合格者数	現役40人以上	現役41人合格	B
		難関私立大学合格者数(早・慶・上・理)	現役70人以上	現役81人合格	A
		GMARCH合格者数(学習院・明治・青山・立教・中央・法政)	現役100人以上	現役134人合格	A
		第6学年についてのケース会議	年間3回	年間3回実施	B
		ステージ論文の発表会	ICTを活用して各1回実施	各1回実施	B
		全員の論文を冊子にまとめて発表		冊子を作成:内容の充実が課題	B
		第3・4学年による大学訪問	それぞれ1回	第3学年2回、第4学年1回実施	B
事業所と連携した職場見学・職場体験	のべ60社以上の事業所と連携 2学年での発表会実施	のべ78社と連携 実施	A B		
4	募集対策	学校見学会・学校説明会への参加者	のべ5,000人	のべ5,100人参加	B
		授業公開参加者	のべ1,800人	のべ2,500人参加	A
		応募倍率	6.0倍以上	6.74倍	A
		適性検査の解説会	年間1回	年間3回実施:内容の充実が課題	B
5	グローバル人材の育成	海外生徒を招いての国際交流	年間3回以上	年間4回実施	B
		校内留学	冬季・春季休業日中にそれぞれ3日間実施 参加生徒60人以上	それぞれ3日間実施 67人参加	B A
		海外研修ボランティア研修	アメリカ(ワシントン州シアトル)で実施 参加生徒40人以上	実施 45人参加(応募者数59人)	B A
		海外修学旅行	実施	実施	B
		海外での学校交流を1日実施		実施	B
		英検準2級以上の取得率	前期課程修了時点65.0%以上	76.3%取得	A
		GTEC3技能試験にける取得目標平均点	第4学年:520点(Basic) 第5学年:550点(Advanced) 第6学年:610点(Advanced)	507.2点:指導方法及び実施形態の改善が課題 532.8点:指導方法及び実施形態の改善が課題 570.4点:指導方法及び実施形態の改善が課題	B- B- B-
		Speakingの受験(第4・5学年)	Grade4:50%	Grade4:89.7%	A
		海外姉妹校2校とのインターネットを活用した交流	実施	未実施:技術的な課題を再検討	B-
東京グローバル遠足(第6学年)	実施	実施	B		
6	その他	生徒一人当たりの年間読書冊数	25冊以上	53.9%の生徒が25冊以上	B
		図書館における貸出図書冊数	14,000冊以上	7,139冊:電子書籍の閲覧が一層進行	B
		ICT機器を活用した授業公開	年間2回以上	年間2回実施	B
		ICTパイロット校事業成果検証報告会	年間1回	年間1回実施	B
		主権者教育充実のため模擬選挙	年間1回(3学年)	年間1回実施	B
		模擬裁判員体験や財務教育プログラム等の特別授業	年間1回(4学年)	年間4回実施	A
		書評合戦	上部大会出場	全国高等学校ビブリオバトル決勝大会に1人出場 全国中学ビブリオバトル優勝	A
		江戸時代の数学「算額」や統計の基本	コンクール入賞(2学年)	算額を作ろうコンクール銀賞に1人入賞	A
		スポンサード・ウォーク	年間1回	年間1回実施	B
		若手教員2人一組のOJT	5組以上	5組実施	B
		企画調整会議、職員会議のペーパーレス化	実施	完全実現	A
		休暇の率先取得	管理職:年間10日以上、主幹教諭:年間5日以上	管理職:未達成、主幹教諭:一部達成	B-
		休校日(学校閉庁日)の設定	年間1日以上	年間1日実施	B